

新型コロナウイルス感染症に対する今後の医療体制について

1 基本的な考え方

- 新型コロナウイルス感染症陽性者確認数の減少等による緊急事態宣言解除を踏まえ、
  - 入院体制については、他の疾患の医療提供とのバランスも考慮し、特に重症患者の医療に支障が生じないよう配慮しつつ、フェーズに応じた体制の構築
  - 外来・検査体制については、県民の不安解消を図り、第2波に備える体制の強化を基本として取組を推進する。

2 入院医療体制

(1) 基本方針

患者減少の状況を踏まえ、新型コロナウイルス感染症以外の医療提供にも意を用いる必要があることから、病床や医療スタッフの体制を見直すとともに、患者動向等を注視し、体制強化が必要な場合には機動的な対応を行う。

【入院医療体制の状況】

区分	確保病床数等			うち重症		
	病床数等	患者数等	差 引	病床数等	患者数等	差 引
入院病床	515	43	466	71	12	58
宿泊療養	578	17	560	-	-	-

(2) フェーズに応じた体制の構築

区分	感染小康期	感染警戒期	感染増加期	感染拡大期
取組の方向性	新型コロナウイルス感染症以外の医療に重点を置きつつ一定の対応	新型コロナウイルス感染症以外の医療から重点をシフトする	新型コロナウイルス感染症対策を強化	
目 安 〔新規陽性患者数 (1週間平均)〕	10人未満	10人以上 (再要請基準)	20人以上	30人以上
体制構築の 考 え 方	15人/日の新規患者数発生に対応 ※必要病床数：156.9 (うち重症：33.6) 必要室数：82.5	20人/日の新規患者数発生に対応 ※必要病床数：209.2 (うち重症：44.8) 必要室数：110.2	30人/日の新規患者数発生に対応 ※必要病床数：313.8 (うち重症：67.2) 必要室数：165.0	40人/日の新規患者数の発生に対応 ※必要病床数：418.4 (うち重症：89.6) 必要室数：220.0
病床数 (空床補償対象)	200床程度 うち重症40床程度	300床程度 うち重症50床程度	400床程度 うち重症70床程度	500床以上 うち重症90床以上
宿泊療養室数 〔7月中旬までは 現行室数維持〕	200室程度 (2施設)	200室程度 (2施設)	300室程度 (3施設)	500室程度 (4施設)

3 外来医療体制

(1) 基本方針

県民の不安解消を図るとともに、地域によっては外来対応施設増設の要望もあることから、第2波に備えるため体制強化を図る。

(2) 具体的な方向性

- ① 帰国者・接触者外来(56機関)のさらなる増加

【帰国者・接触者外来の状況】

圏域名	神戸	阪神	東播磨	北播磨	播磨姫路	但馬	丹波	淡路	合計
機関数	8	22	8	3	9	3	2	1	56

- ② 各圏域における外来等受診状況を踏まえ、「地域外来・検査センター」など臨時外来の設置について、関係市町及び医師会等関係団体と協力して対応  
(県所管圏域：3カ所+政令・中核市：5カ所=計8カ所程度を想定)

4 検査体制

(1) 基本方針

受診目安の見直しや県民ニーズによる今後の検査数増加等に備え、体制の充実を図る。

(2) 具体的な方向性

- ① 県立健康科学研究所等において新たにPCR機器等を購入し、検査能力を約500件に拡充
- ② 帰国者・接触者外来や宿泊施設における民間検査委託や、医療機関等での検査実施を推進
- ③ 「地域外来・検査センター」等の設置推進(再掲)

【PCR検査体制】

区分		2月	現状	拡充	説明
衛生研究所等	兵庫県	80	120	200	新たなPCR検査機器の導入 神戸(24→72→142)、姫路(12→24→46) 尼崎(12→24→48)、明石(0→18→60)合計：296→300
	保健所設置市	48	160	300	
	小 計	128	280	500	
民間検査機関	帰国者・接触者 外来	-	50	100	公費負担継続医療機関(現在56機関中31機関)の増加 推進 県2カ所、神戸市2カ所 地域外来・検査センター 県3カ所、保健所設置市5カ所 20件×8カ所
	宿泊施設	-	30	100	
	地域外来・検査センター	-	-	160	
小 計		-	80	360	
医療機関(自施設実施分)		-	44	140	・既存PCR検査機器の積極的活用 ・新たなPCR検査機器購入支援
合 計		128	404	1,000	*2万件(国目標)×5%